

古代、東アジアの動乱時代には、新天地を求め海流に乗り、この白須賀の地に上陸し、まだ浜名川に橋が架からない時代には、浜名川を多くの人がロープで船を引きながら遡上し、湖内に入って行ったと思われる。このような船の扱い方は、世界の開拓史にも良く見られる光景である。

海浜を東西に行き来する時代では、浜名川に橋が架かっていたと思われる、小船に乗り換える事や、橋の一部は帆船の為に容易に外せる構造だったのかもしれない。

この出来事の歴史的な証言ができる船や橋は、木材であった為に腐食し現在までは残らず、その事実を語る事は出来ない。

それでも船などに使われた水に強い一部の木材は、後に城や寺社そして井戸の木杵等に使われ、形を変え若干であるが当時の様子を伺うことが出来る。

古代、浜名湖と太平洋を結ぶ浜名川は、当時の人々に役立つと同時に、日本の歴史に影響を与えたことだと思う。今は殆ど面影がないが“浜名川”という名を残した事により、現代の人々にロマンを与え続けている。

〔周辺所在地〕

〒431-0451 静岡県湖西市白須賀900（おんやど白須賀周辺）

〒431-0302 静岡県湖西市新居町新居（現新居町～大倉戸周辺＝浜名川）

10

新居浜と浜名橋・編

古代・東海の景勝地だった幻の浜名橋！

■新居浜と浜名橋。

浜名湖が現在の穏やかで美しい湖として形づけられたのは、遥か昔の気が遠くなるような年月を経て今に至っている。

多くの文献では日本国土の形が生まれるにあたって、浜名湖は内湾の形成から始まった。そして天竜川や外洋の潮流等により、湾の突端辺りに堆積物が溜まると同時に塞がれ、淡水湖が形成されたと言われている。

その時に新居浜の原形が誕生し、幾度の地形の変化を経て、現在の新居浜が誕生したようである。

淡水湖には周囲の山々などから水が流れ込み、外洋へ向かって川が流れていたようである。海面より高い位置にあった浜名湖は、外洋へはつながっているものの淡水湖であり続けていた。

その川には当時、東西へ行き来した人々がその思いを歌にし、今日に伝わる“浜名橋”が架かっていたと言われている

その後、明応の大地震（1498年＝室町時代）により橋は流され、外洋との間に今切口ができ、現在のような汽水湖になったようである。

因みに橋は幾度と修復されたようであるが、概ね橋の長さは170m前後あったようである。

また同じように、古代、海辺近くに造られた神社と伝承され、浜名橋の往来時に参拝されたと言われる、角避比古神社も流され、現在も橋と共に何処にあったのか未だに特定されていない。



（遠州灘から見た現在の新居浜と浜名大橋）

天変地異により失われた古代の景勝地を歴史ロマンとして、新居浜周辺を探訪し、時の流れを読み解きながら浜名橋や角避比古神社の所在や当時の情景を探るのは如何だろうか。

【新居浜＝新居の浜】

古代、東海地域で人々が活動し始めてからも、新居浜は幾度となく地形が大きく変化したことが知られている。

そうした中でも人が安定して東西へ往来する時代には、外洋に面した新居の浜では、朝、夕に水面が黄金色に光り輝き、日中は砂浜に色鮮やかな花が所々に咲き、優しく花の香りがする砂丘のような所であったと思われる。

そして時には、新居浜に遠くの国から来た船も上陸し、また川を遡って湖に入るのを眼にすることが出来たのではないだろうか。浜名湖の北

側の山麓には古くから渡来人が生活を営んだ跡が残されている。

当時、周囲に山々を抱く浜名湖を南側の海浜から見た姿は、希望に満ちた新天地に見えた事だと思う。現在も新幹線の車窓から見る景色は、開放感に溢れた浜名湖の姿が美しく見える。



(新居弁天海浜公園)



(新居の関所)

現在、新居浜の湖内に面した側では公園として、海水浴やフィッシング、そして海産物が食べられる所として親しまれている。また南側では外洋に面した長い砂浜が続き魅力的である。そして新居の町の中には、古くからの神社仏閣、また、昔は海浜にあったと言われる新居の関所などの史跡があり、歴史ロマンには欠かせない所である。

【蘇りを願う“幻の浜名橋”】

古代、浜名湖の水は外洋へと流れ込み、そこには東西の往来の為に“浜名橋”という名の橋が架かっていたという。また、現在の新居町の山を背負うような海浜の位置に、格式の高い角避比古神を祀る神社が建てられていたという。

この浜名橋と角避比古神社との一体性が、当時、東西を往来する人々にとっては大変思い出に残る情景地であったようであり、古き時代の歌として残っており、古代に於いて東海地域の一大景勝地であったと思われる。

しかし残念ながら、前述の通り明応の大地震により、浜名橋も角避比古神社も行方が分からなくなったと言われている。唯、歴史の一伝承として残ったことは、現代の人々に思いを委ねているのではないだろうか。

長年、浜名橋が何処であったかという橋を探す研究もあり、諸説の中には浜名湖の北側の三ヶ日付近ではないかというほど“幻の浜名橋”を探る研究の幅は広がっている。また、新居には橋本（橋下）という地名が残っており、浜名橋のたもとではないかという意見もある。いずれにしても探求心の止まない話題である。



(現在、今切口に架かる浜名大橋)

現在、今切口に架かる自動車道としての浜名大橋に、歩道が備わればという考えもある。確かに浜名大橋の下に歩道橋を設け、新居浜と舞阪の浜を歩きながら渡り、広大な太平洋を見ると同時に、一方で穏やかな浜名湖面を見ることが出来るのは大変、魅力的である。

古代の人々が感じた浜名の情景をもう一度蘇る事ができる“現代の浜名橋”の建設に希望を持ちたいと願う次第である。

〔周辺所在地〕

〒431-0302

静岡県湖西市新居町新居

(新居海釣公園周辺)

(海湖館)

浜名湖ロマン十景

幸

浜名神戸と浜名惣社神明宮

社殿は伊勢神宮に向いており、伊勢神宮からの日の出の地である。元伊勢伝説の地。機織りの祖神として、初生衣神社がある。



細

1300
りが
とか

瀬戸と猪鼻湖神社

湖内に突き出た珍しい岩からなる神社。



嵩山とトキワマンサク

神聖な神座の地に、祭祀に用いる紙垂の原型と思われるトキワマンサクがある。中腹に神座古墳群がある。



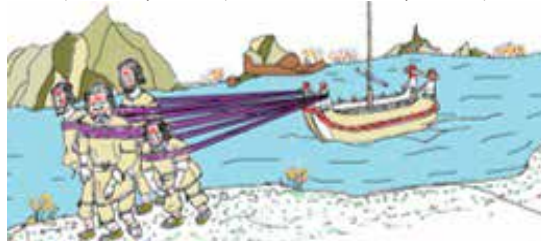
江尻鼻と瞳水面

浜名湖の瞳水面と
浜名三橋が見える。



白須賀と浜名川

遠方からの船は、浜名川を上り、浜名湖へ入る。



新居浜と浜名

太平洋から見えたか
古代の角避比古神社



幸運を手にする浜名湖巡り。

工神社と潯標

千年前から船の出入りがあり、出雲や難波とかわりが深い。



井の国と天白磐座遺跡

古代の神聖な巨石祭祀場



銅鐸出土地点数日本一。
外海からの船による、
湖畔文化圏が成立していたようだ。



内浦と曾許乃御立神社



茨城県の鹿島神宮との関わり合いが深い。船の往来があったようだ。当時は館山寺の湾は船で埋め尽くされたかもしれない。



浜名湖ロマン叙事詩

紀元の始め、アジア大陸に大乱が起こり身に迫る大乱の中、多くの人々が新天地を求め、海を渡った。太平洋側を航海した高度の文化を持った人々は、日本の魅力ある地に上陸し、それぞれ活動拠点を設けた。その一つが浜名湖畔であった。

浜名湖畔の活動拠点は聖地として崇められ、船の交流を通じて、新しい湖畔文化圏が形成され、同時に日本の建国に大きく寄与した事が推測される。

先人の苦難と努力により誕生した聖地である浜名湖畔は、現在も幸運の舞い降りる地として、人々に恩恵を与えている。

橋

かもしれない
土と浜名橋。



弁天島と今切舞阪港

天変地異に耐えた、この地の海産物を食する事により、運気を高められそう。



古墳時代の船埴輪。
松坂市出土。

浜名湖ロマン十景めぐり

遥かなる歴史ロマンを求めて！



弁天島と今切舞阪港 (神話・大国主命を蘇らせた舞阪の地！)	年 月 日
内浦と曾許乃御立神社 (出雲の国譲り神話の舞台は浜名湖か！)	年 月 日
井の国と天白磐座遺跡。 (浜名湖を支える水の神・天白磐座遺跡！)	年 月 日
細江神社と漣標。(みおつくし) (渡来人の香り漂う古代港、程江！)	年 月 日
浜名神戸と浜名惣社神明宮。 (伊勢神宮の遷宮候補地だった三ケ日の地！)	年 月 日
瀬戸と猪鼻湖神社。 (猪鼻湖は”井の国の花の都”だったのか！)	年 月 日
嵩山とトキワマンサク。 (古代・嵩山は神事の発祥地だったのか！)	年 月 日
江尻鼻と瞳水面。 (席を見通す力が宿る浜名湖の瞳水面！)	年 月 日
白須賀と浜名川。 (安らぎと運が舞い降りる白須賀の地！)	年 月 日
新居浜と浜名橋。 (古代・東海の景勝地だった幻の浜名橋！)	年 月 日

浜名湖ロマン十景

編集・発行 特定非営利活動法人浜名湖クラブ

〒432-8003 静岡県浜松市中区和地山三丁目1番7号
株式会社浜名湖国際頭脳センター内

TEL 053-416-4002

FAX 053-416-4001

E-MAIL info@npo-hamanakoclub.jp

平成30年1月 初版

御存知ですか。

なぜ！浜名湖周辺には“運”が下りてくるのでしょうか？

図は東海地方の地図を90度傾けたものです。



地形から浮かび上がる人物像

浜名湖ロマン

浜名湖は“まなこ＝眼”です。先を見通す力があるのかもしれません。

円周上には多くのパワースポットと呼ばれる所が存在します。

その中心が浜名湖です。

浜名湖周辺から中世では、徳川家康や豊臣秀吉が育ち、

近世では多くの世界企業が生まれました。

これほどの湖はあるのでしょうか。まさに“運”が下りてくるところなのですね。